

業種・食品種類	糖類・澱粉, 清涼飲料, その他	売上規模	10～30億円未満
効率化工程	梱包・運搬		
効率化	後工程, 機械・ロボット		

清涼飲料・菓子・糖類製造業	宮崎県
---------------	-----

飲料製造ラインにパレタイザーを導入。製造時間の短縮、従業員の負担軽減に効果

■ 従業者の状況

従業者数		従業者の部門別構成比		
正社員・契約社員	パート・アルバイト	製造部門	間接部門	その他
30名名	12名名	70.0%%	15.0%%	15.0%%

■ 生産関連の状況

生産量／稼働時間	生産量	工場稼働時間
	18,000L／日	18時間／日

コスト構造 構成比	原材料費	人件費	減価償却費	その他
	約60%	約20%	約10%	約10%

製造工程における 設備・機械対応比率	製造工程 [原材料投入から製品完成まで]		設備・機械対応比率
	うち、設備・機械対応		
	8工程	3工程	37.5%

設備・機械担当人数	設備・機械担当者計 [メンテを含む]	設備・機械メンテ 担当者	機械・設備導入・ 整備選任	その他
				担当 -
現状	3人	1人	2人	-
5年前	3人	1人	2人	-

！生産性向上におけるPoint

- ✓ パレタイザーの導入により、従業員の負担軽減に効果
- ✓ 今後も箱詰め作業などの機械化を推進

コスト低減に向け、飲料部門の製造効率向上を優先的に推進

同社では、飲料部門において業務用かき氷シロップや清涼飲料水などの製造、食品部門においてポップコーン関連原材料や綿菓子関連原材料などを製造している。

主な経営課題は、原材料費などのコスト上昇への対応、人材の育成・確保である。特にコスト上昇は収益に影響するため、内部努力によるコスト低減が喫緊の課題であり、製造効率の向上により課題解決を図っている。

粉体製品を中心に扱う食品部門に比べ、飲料部門は製品の重量が重く、従業員の負担が大きいことや、ヒューマンエラーの解消やラインの省人化が課題であったことから、飲料製造ラインの課題解決を優先的に進

パレタイザー導入が従業員の負担軽減に効果

2023年、飲料製造ラインにパレタイザー（段ボールをパレットに積む機械）を導入した。従来は1箱当たり約20kgの段ボールを従業員が手作業で運搬していたが、パレタイザーの導入によりその負担が軽減された。製造時間の短縮効果もあるが、従業員の負担軽減による効果も大きいと考えている。

飲料製造ラインで更なる機械化を推進。箱詰め工程などを機械化へ

今後、飲料製造ラインにケーサー（製品を自動で段ボールに詰める機械）、製函機（段ボールを自動で組み立てる機械）、封函機（段ボールに自動で封をする機械）、梱包機を導入する予定で、現在準備を進めている。